



WELCOME TO
ARTS MAEBASHI



ようこそ、アーツまえばしへ WELCOME TO ARTS MAEBASHI

私たちは、芸術文化が地域に何を生み出し、もたらすのかをみんなで考え、アーツ前橋が誰にとっても必要な場所になってもらえるように願っています。そのために、私たちは以下の3つを活動のコンセプトとしました。

- 1 創造的であること
- 2 みんなで共有すること
- 3 対話的であること

We will think what art and culture will give birth to in this region, and making Arts Maebashi an essential place for everyone. Following is our concepts on the programs:

- 1 TO BE CREATIVE
- 2 TO SHARE
- 3 TO FACILITATE DIALOGUES



館長挨拶

アーツ前橋は、都心からも遠くないにも関わらず、赤城山の雄大な裾野や利根川の豊かな流れといった自然に恵まれた地域の市街地に位置しています。効率と合理性を優先させてきた価値観と少し距離を置き、創造的なことに取り組むのにはふさわしい場所です。

近隣には、前橋文学館や、群馬県立近代美術館、高崎市美術館、姉妹館の高崎市タワー美術館、ハラミュージアムアークなどをはじめ魅力的な施設が数多くあり、私たちもこの地域の芸術を振興し、その発信に寄与できるような活動を目指しています。

芸術文化は長い時間をかけて蓄積され伝えられていくことで、その役割を果たします。それはどのようにして自分たちが今生きているのかを知ることを手助けしてくれるでしょう。だから、私はここで過去や同時代の人々が何を感じ、表現しようとしたのかを、みんなで共有できるようにしたいと思います。そして、それを知りたいと願う人たちが交流する場もつくりだします。そうして多くの人々にとってアーツ前橋が大切なところになり、みなさんに支えてもらえる場所になってもらいたいと考えています。

また、目に見えない感性のはたらきを形にして伝える素晴らしい能力を持つ芸術家たちへの支援も私たちの重要な役割です。すべての人が芸術家にならないにしても、子どもから大人まで多くの人々が少しでもそうした創造力に触れる機会を増やしていくことには大きな力を注ぎたいと思っています。そのために展覧会の開催だけでなく、もっといろいろな形式のプログラムによって芸術の魅力を伝えていきます。

そして、アーツ前橋の活動が文化的資源に光をあてることで、結果的に地域の活力につながることを信じています。ここで行われるさまざまな対話から、きっと新しいアイデアが生まれ出されていきます。それらは芸術文化の枠を超えて、小さな波紋が広がっていくように私たちの未来をつくっていくと思います。

これから何十年、何百年先も、ずっと地域に必要とされる創造の拠点であり続けるために、こうした努力を続けていきたいと考えています。どうぞ、みなさまの支援とご助言をよろしくお願いします。

住友 文彦 アーツ前橋館長

Greetings from the Director

Arts Maebashi is based in the heart of Maebashi City, Gunma Prefecture, a region surrounded by Mount Akagi with its magnificent foothills and the flow of the rich Tonegawa River. The birthplace of Hagiwara Sakutarō, a giant in contemporary colloquial poetry, even now the area remains a peaceful, green landscape though not far from Tokyo. At a distance from a society that prioritizes efficiency and reason, it is an ideal location for creative endeavors.

Several institutions are located near us including The Museum of Modern Art, Gunma; the Takasaki Museum of Art; its sister museum, the Takasaki Tower Museum of Art, and the Hara Museum ARC. As we collaborate with these institutions, we hope to become a different kind of creative focal point.

Art and culture fulfills its role as it accumulates and is transmitted over a long period of time. The process helps us learn how we are living in the present. That is why, in this institution, I wanted share with everyone what both people past and present felt and attempted to express. And, I also intend to create a place where those who hope to know this can interact with each other. I believe this will make Arts Maebashi an important place for many people, and hope this will become a place that everyone supports.

Furthermore, we, as a society, also fulfill important roles as supporters of artists with amazing abilities to manifest and express the workings of those sensations we cannot see. Although we cannot all be artists, I hope to increase as much as possible opportunities for everyone, from children to adults, to come into contact with this creative power. To achieve this, it is not enough to simply hold exhibitions; we need to convey the appeal of art through various programs.

I believe that as Arts Maebashi shines light on cultural resources, it will ultimately lead to regional vitality. From the dialogue that occurs in this place, surely new ideas will be born. They will step beyond the framework of art and culture, and, like small, expanding ripples, I believe they will create our future.

We hope to make this kind of effort in order to remain a creative base for the region in the decades and centuries to come. We thank you deeply for your support and advice going forward.

SUMITOMO Fumihiko Director of Arts Maebashi

1

創造的であること

個人の考えを表現することは、異なる考えを持つ人たちが共存していく現代社会で今後ますます必要とされます。他の誰とも違う、独自の感じ方や考えを創造的に表現して人に伝えることは、ひとつの価値だけでなく、いろいろな価値を認めていくことにもつながると考えています。

The expression of ideas by individuals is becoming increasingly necessary in a contemporary society in which people with different ideas must coexist. We believe that creatively expressing a unique perception and way of thinking different from others is not an acknowledgement of only one value but will lead to the acknowledgement of a diversity of values.



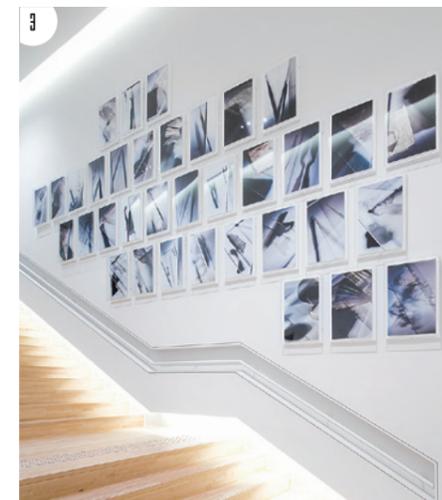
プレオープン展示「コレクション+ からだが語る」2013年、正面(手前)：下山直紀《way》、正面(奥) 中村節也《弾琴》、右：下山直紀《fact》

展覧会とコレクション

現在と過去、未来を切りひらく感性に出会う

開館記念展「カゼイロノハナ 未来への対話」(2013年10月26日—2014年1月26日)では、前橋にゆかりのある美術作家、あるいは文学者、音楽家、科学者など幅広く創造的な仕事をした人物が、時代やジャンルを超えた対話によって私たちの未来を切り開く作品を紹介しました。同時にコミッションワークの作品や館外に広がる地域アートプロジェクトも合わせて国内外の作家が計50組参加しました。当館は、こうした近現代美術の作家によって生み出される多種多様な表現に触れることができる展覧会を実施しています。また、全国レベルで活躍した地域ゆかりの作家や当館の事業に関わった作家の作品などを収蔵することによって、新しい創造につながる文化と歴史を未来へ伝えていきます。

主な収蔵作家(五十音順): 加藤アキラ、金子英彦、小室翠雲、近藤嘉男、塩原友子、清水刀根、高橋常雄、田中青坪、中村節也、福沢一郎、福田韶太郎、南城一夫、山口薫、横堀角次郎など



開館記念展「カゼイロノハナ 未来への対話」2013—2014年

- 1 左: 金子英彦《退屈する人》、《予感》
中下: 加藤アキラ《環》、中上: 加藤アキラ《無題》
右: 塩原友子《漢》
- 2 会場風景(ギャラリー1)
- 3 木暮伸也《物陰》
- 4 池田政治《やまどりのゆめ》

イベント

複数形の「アーツ (arts)」

美術作品を見ることにも、作ることに、いろいろな芸術の表現が互いに影響を与え合っているはずです。新しい創造は、そうした異なるもの同士の出会いから生まれるのではないのでしょうか。美術以外にも、音楽、映像、演劇、ダンスなど、展示空間を活かしたさまざまなジャンルの芸術に触れてもらう事業をおこなっています。



- 1 パフォーマンス in アーツ前橋
「off-Nibroll いつもの時間
-the same time as always-」2013年
- 2,3 パフォーマンス in アーツ前橋
「鈴木ユキオ licking the dust /
村田峰紀 ドロー」2013年
- 4 アーツ前橋 音楽コンサート「コスモス」2013年
演奏者：中島ノブユキ



みんなで共有すること

文化も芸術もみんなが当事者です。多くの人が関わることで、じっくりと時間をかけて文化や芸術の魅力は磨き上げられ、かけがえのないものになっていきます。子どもからお年寄りまで、芸術が好きな人も苦手な人も、みんなが未来の文化の担い手となることができます。

Art and culture concern everyone. Gradually over time, when many people are involved, the appeal of art and culture is transformed into something irreplaceable. From young to old, both art lovers and those who are intimidated by it, everyone can participate in building our cultural future.



村田峰紀の「背中で語ろう」ワークショップ 2013年

アートスクール

もっと知りたい。参加したい

表現活動にもっと積極的に関わりたい、もっと詳しく学びたい、同じ関心を持つ仲間と知り合いたい、という人たちが、イベントのときから参加してくれました。アーティスト、編集者、映画監督から旅館の女将まで多彩な講師陣と出会い、ここから小さなメディアを作り出す人たちが、自分たちでイベントや展覧会をつくるグループ、地域アートプロジェクトを担う人材が、今も私たちと一緒に活動しています。



- 1 アーツ前橋を支えるサポーターの養成講座 アートスクールSコース「アーツ前橋を裏側からつくる」2013年
- 2 様々なワークショップを体験して検証 アートスクールAコース「ちがいを楽しむ」2011年
- 3 前橋の魅力を受講生が発掘し、映像にして発信 アートスクールFコース「マエバシ文化発信局」2013年

トーク&シンポジウム

創造の秘密とアイデアに触れる

シンポジウム「地域とアートを紡ぐ3日間」(2014年2月14-16日)ではクリエイティブな活動と地域社会の関係について、国内外の先進的な試みの実践者たちが前橋で活動する人たちと意見を交わすことで、お互いの知識や経験を共有しました。アーティスト・イン・レジデンスの担い手から、街づくりやビジネスの分野で活躍する人たちが、新しいアイデアを生み出すための議論をおこないました。展覧会や公演事業だけでなく、その背景にある考え方に触れ、意見を交換するためのトークイベントも数多く開催しています。



- 1 アーツ前橋シンポジウム～地域とアートを紡ぐ3日間～ 2014年
- 2 カフェで行うレクチャー「カフェトーク」2013年
- 3 アーツ前橋開館記念シンポジウム「アートと出会う」2014年

参加

仲間を増やす

アーツ前橋には様々な参加の形があります。「おしゃべりアートツアー」では、展示室では静かにしていなければならないと言われる子どもたちが、自由に作品を見て感想を言える特別な鑑賞の時間を設けています。子どもを案内して一緒に会話をするためのサポーターになってもらうのも市民のボランティアです。子どもが決まった答えを見つけるのではなく、自分なりの感じ方を人に伝えるための手助けをしています。



- 1 アーティストと子どもから大人までの市民有志によって作り上げたパフォーマンス内覧イベント「WALK あるくことからはじまること」より「音楽+ダンス+演劇の時間」2013年
- 2 テーマ設定から展示まで高校生が担当した「高校生とつくる展覧会 ぶるぶる不発弾」展 2014年
- 3 企画や運営をお手伝いする「サポーター」定期的に行っている活動のひとつが、図書資料の整理です
- 4 作品を見ながら対話する「おしゃべりアートツアー」小学生と鑑賞サポーターがじっくりと作品を鑑賞して感じたことを共有しています
- 5 アーティスト関口光太郎と一緒に作品を制作するワークショップ「広げよう美術の環 彫刻 1,000 体ツクルンジャー」2011年



対話的であること

ここで人が出会い、それぞれが個性を活かし対話をする場所になって欲しいと考えています。そこから、新しいアイデアがたくさん生まれ、きっとそれらはみんなの生きる力になっていくのではないのでしょうか。

We hope this facility will become a place where people will encounter each other embracing their individuality to create a dialogue. Many new ideas will be born from the dialogues that will surely give them strength to take positive steps forward.



街なかの広場に設置された人型の庭「ハーブマン」。EARTHSCAPE「メディカル・ハーブマン・カフェ・プロジェクト in 前橋」2013-2014年

地域アートプロジェクト

みんな違うからおもしろい

アーティストが館外に出て、地域のなかでモノを作る、アイデアを生み出す、コミュニケーションをデザインする、といった試みを街のなかに広げていきます。例えば「前橋食堂」では、一見ごく普通の一般家庭の料理をリサーチしてそのレシピを一冊の本にまとめました。日常の食生活に潜んでいる豊かな個人の歴史や文化に触れることができます。地域の課題や日常生活と、アートが持つ創造力が会合うことで新しい出来事をつくりだしていくことを目指しています。



- 1 白川昌生「駅家の木馬祭り」2014年
- 2 「磯部湯活用プロジェクト」
招聘作家:伊藤 存、幸田千依 2013-2014年
- 3 増田拓史「前橋食堂」2013-2014年
- 4 西尾美也+FORM ON WORDS
「ファッションの時間」2013-2014年

地域アートプロジェクト

地域の日常生活×アート

「磯部湯活用プロジェクト」では、2012年に廃業した銭湯、旧磯部湯を使って、アーティストの伊藤存と幸田千依が公開制作と作品展示をおこないました。明るい自然光が入るスペースを制作アトリエとして活用し、所有者やかつての利用者との対話を重ねながら新しい作品が生まれました。



- 1 「磯部湯活用プロジェクト」招聘作家:伊藤 存、幸田千依 2013-2014年
- 2 EARTHSCAPE「メディカル・ハーブマン・カフェ・プロジェクト in 前橋」2013-2014年
- 3 フェルナンド・ガルシア・ドリー「風の食堂」2013年

まちとの結びつき

街の魅力を再発見

アーツ前橋はまちとゆるやかにつながりながら、芸術文化や人々の交流を促しています。



- 1 off-Nibroll「ダンスで時計」ワークショップ 2013年
- 2 開館記念展 オープニングパレード 2013年
- 3 アーツ前橋オープン記念フラッグ 2013年

COMMISSIONED WORKS

コミッションワーク

いつでも出会える作品たち



廣瀬智央 HIROSE Satoshi 《空のプロジェクト：遠い空、近い空》 Sky Project : Your Sky, My Sky, 2013
屋上看板4面/DVDループ映像

どこに居ても同じように見える空。ミラノ在住の作家と前橋市内の母子生活支援施設「のぞみの家」の子どもたちが、〈空の交換日記〉を通じてお互いが見ている空の写真をやりとりしました。その写真が本当の空を背景にした屋上看板と、館内のモニターで見ることができます。



TOKYODEX 《青い猫のいる街》 Blue Cat City, 2013 カフェの壁画、床面、ポスター掲示板のマグネット

萩原朔太郎の詩からインスピレーションを受けて、自由に空想の街を想像して描かれています。蝶が飛び回る様子を「てふ てふ …」(『恐ろしく憂鬱なる』より)、また犬の鳴き声を「やわあ」(『遺伝』より)と書くなど、印象的な朔太郎の擬態語を活かして不思議な世界観を作りあげています。

アーツ前橋の建築に合わせてアーティストが制作した恒久設置作品です。
館内・館外の思わぬところに設置されています。



off-Nibroll (オフ・ニブロール) 《いつもの時間》 The Same Time As Always, 2013 映像、ソフトウェアによる自動再生

この時計には、ワークショップに参加した人たちが街の人たちが、ダンスの経験者からまったくの素人まで200名近く登場します。身振りによって秒が刻まれ、時報として数分間のダンスが流れることもあります。また、個人的な出来事や社会の大きな出来事が起きてからどれだけの時間が経ったかによって時間を知らせるときもあります。



照屋勇賢 TERUYA Yuken 《静のアリア》
Aria of Calmness, 2013
ギャラリーゼロ、音響機器、CD、階段、冊子

隠れ家のような、来場者が心を落ち着かせて静かに過ごすことができる空間。そこで災害時にしか目にしない非常階段を見ながら、社会のなかで芸術が果たす役割を想像してもらおう場所です。2011年3月27日群馬交響楽団がおこなった演奏会の音と沈黙を聴くことができます(1日2回のみ再生)。



山極満博 YAMAGIWA Mitsuhiro
《ちいさなおとしもの》 Tiny Thing I Lost, 2013
FRP・ウレタン塗装

子どもの手を離れてハナミズキの枝に引っ掛かったような風船。これ以外にも、自分とは別の誰かがいる気配を感じるような同じ作家の作品が館内外に3点展示されています。



建築

まちの記憶、人々の交流拠点に

設計: 水谷俊博+水谷玲子/水谷俊博建築設計事務所
MIZUTANI Toshihiro+MIZUTANI Reiko



建物のかたちは、時を超えて、人々の記憶や思い出とつながっているのではないのでしょうか。既存の建物のかたちはそのままに残しながら、まちと美術館をつなげるインターフェイスとしての新しい顔づくりをおこなっています。既存施設のゆるやかな曲面状の外形を場所の記憶としてとどめ、その建物をつつみこむように、外壁に沿って厚さ10mmのアルミ曲面材に孔のあいたパンチングメタルがあたかも、新しい衣をはおるように建築のファサードをかたちづくっています。夜になると照明が灯り昼以上に華やかな夜のまちの顔づくりもおこなうことにより、繁華街としてのまちの景にもつながっています。もとかたちを引き継ぎながら新しい表情づくりを創出することにより、愛着も刺激もあるまちの顔ができています。

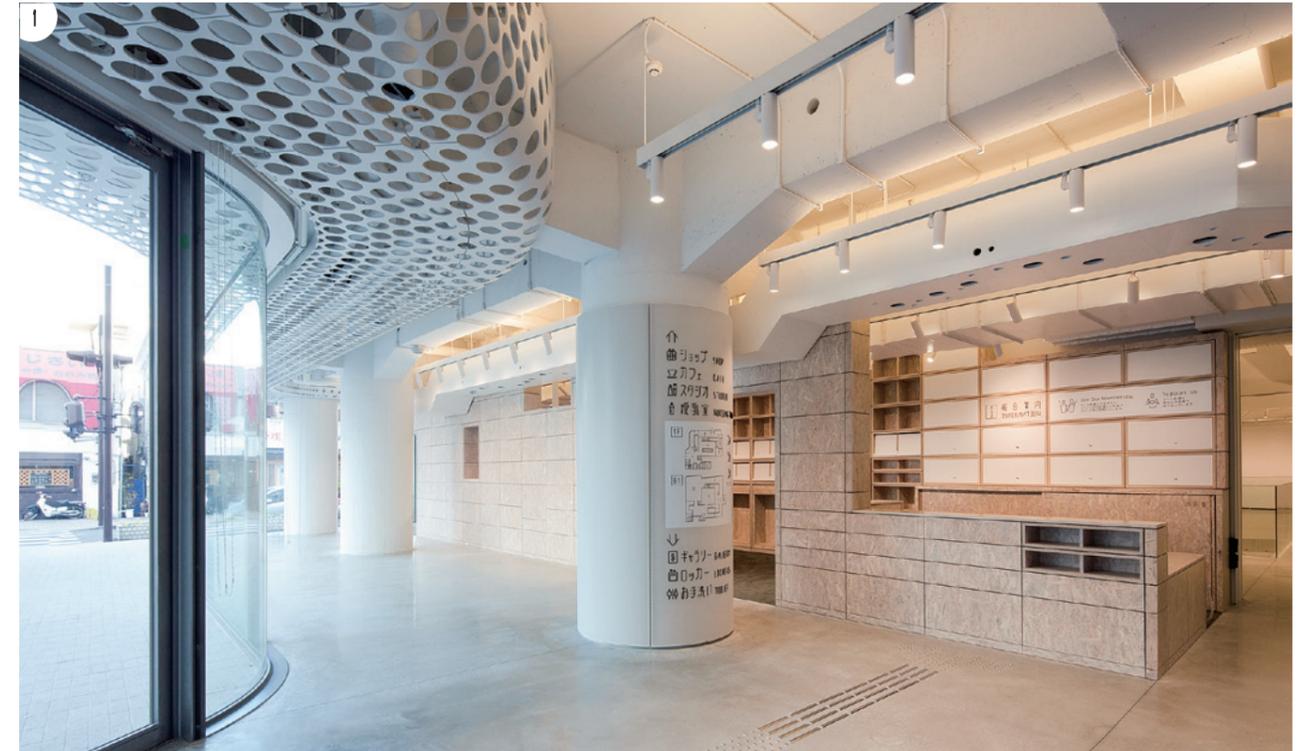
文: 水谷俊博 (P26、27)

- 1 1F エントランスと総合案内
- 2 1F ギャラリー1
- 3 1F カフェ
- 4 1F スタジオ
- 5 2F 収蔵庫

1F.2F

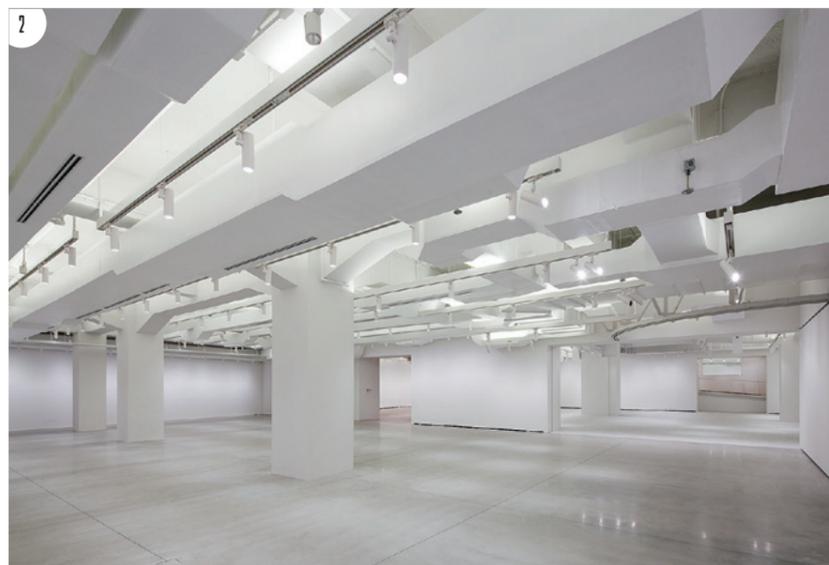
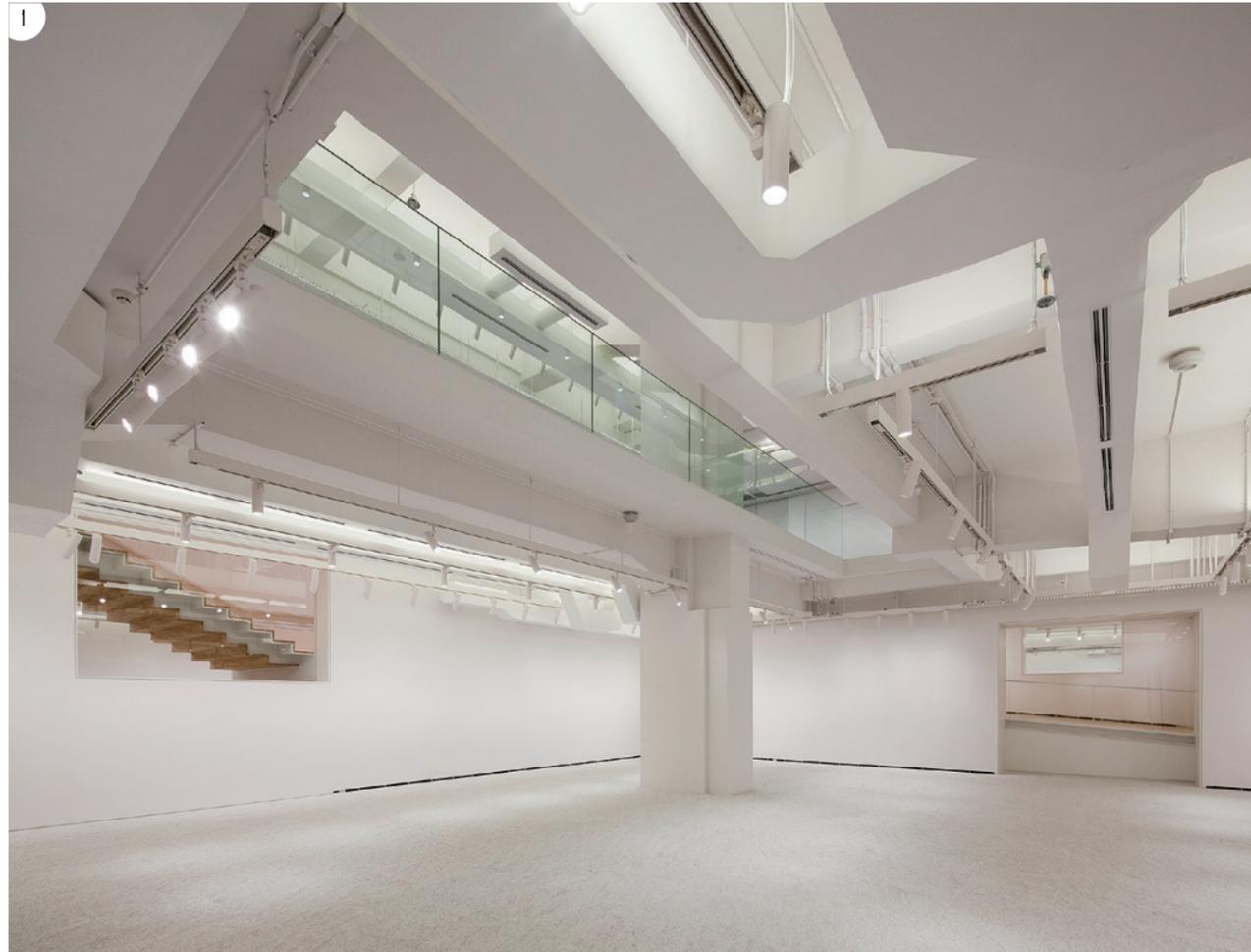


まちから人々が自然と施設内にアプローチし、そのままぶらぶら散策しながら美術館の中へ中へと導かれていき、「まちの散歩道のような美術館」といったゆるやかな景をつくりだすことをめざしています。美術館内部は「プロムナード」と呼ばれる回遊空間を中心に、平面的・断面的に多様なヴォリュームの展示室が連続しながら施設全体をつなげていく構成が特徴的です。来館者がぐるりと施設をめぐる間に、美術館のなかに設けられたさまざまな大きさの窓を介して美術品や、建築自身の魅力、施設内の人々の活動に出会うことができるようになっています。美術館内には既存建物の記憶をさまざまなかたちで、あえて残すデザインを徹底し、それらがつくる景がゆるやかなつながりを形成しています。



B1

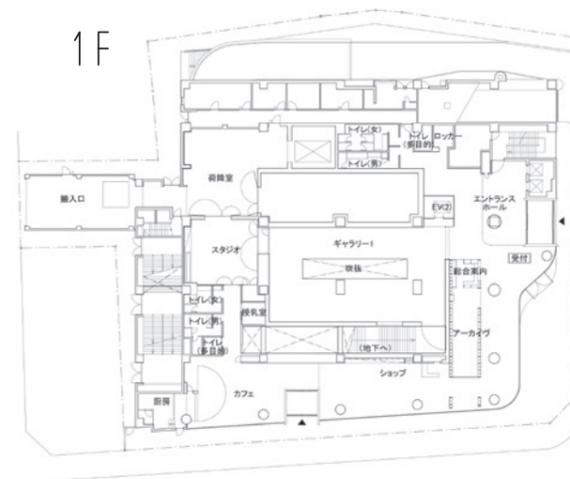
- 1 ギャラリー2
- 2 ギャラリー6
- 3 プロムナード



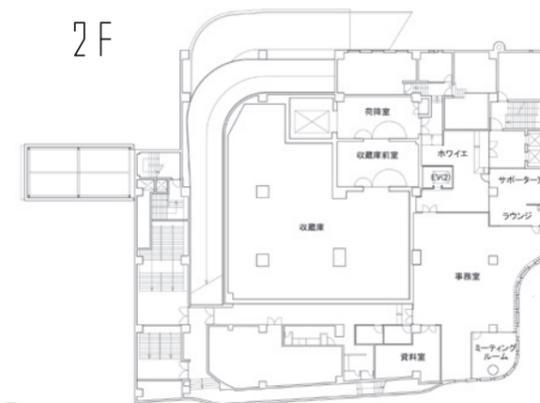
B1



1F



2F



1. 建築物及びその周辺状況

竣工 昭和62年9月9日
 改修工事完了 平成24年10月31日
 構造 鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
 美術館は地下1階、地上1階及び2階部分
 地上3階(一部、映画館)から9階までは駐車場
 建築面積 1,932.89 m²
 延床面積 5,517.38 m²
 外部仕上げ コンクリート打放しの上フッ素樹脂塗装
 一部アルミパンチングメタル張り
 周辺環境 JR前橋駅から徒歩圏内に位置する前橋市街地の中心に位置する。かつての商業施設(デパート)の建物を再利用し、平成25年10月26日に美術館として開館した(プレオープンは平成25年7月4日)。

2. 工事概要

工期 平成23年12月15日～平成24年10月31日
 工事内容 既設鉄骨鉄筋コンクリート造地下1階地上9階建のうち 地下1階、地上1階及び2階部分 工事対象面積 4,923.36 m² ギャラリー、プロムナード、エントランスホール、アーカイヴ、ショップ、カフェ、事務室、収蔵庫ほか
 施工者 建築工事/佐田・鶴川・橋詰 特定建設工事共同企業体
 電気設備工事/利根・群電 特定建設工事共同企業体
 機械設備工事/ヤマト・三洋 特定建設工事共同企業体
 設計・監理 水谷俊博+水谷玲子/水谷俊博建築設計事務所

3. 面積・仕上げ

名称	位置	面積	壁面延長	天井高	仕上げ(床)	仕上げ(壁)	仕上げ(天井)
ギャラリー1	1階	約224m ²	約51.0m	4.25m	コンクリート金コチ	合板+人口木材に水性エマルション塗装	既存躯体スカルトン天井の上、水性エマルション塗装
ギャラリー2	地下1階	約226m ²	約39.0m	4.34m 吹抜部分8.8m	花崗岩JB		水性エマルション塗装
ギャラリー3	地下1階	約165m ²	約26.0m	2.8m	フローリング(ホワイトオーク)に着色保護塗料拭取		既存躯体スカルトン天井の上、水性エマルション塗装
ギャラリー4	地下1階	約78m ²	約14.0m	4.34m	フローリング(ホワイトオーク)に着色保護塗料拭取		水性エマルション塗装
ギャラリー5	地下1階	約237m ²	約58.0m	4.34m	コンクリート金コチ		水性エマルション塗装
ギャラリーゼロ	地下1階	約44m ²	約17.0m	4.14m 2.4m	タイルカーベット		水性エマルション塗装
プロムナード1	地下1階	約80m ²	約30.0m	6.3m 3.09m	集成材(フィンランド パーチ)にオイル着色クリアラッカー		水性エマルション塗装
プロムナード2	地下1階	約46m ²	約18.0m	3.79m	石膏ボードに水性エマルション塗装	水性エマルション塗装	
ホワイエ	地下1階	約158m ²	約25.0m	2.8m	フローリング(ホワイトオーク)に着色保護塗料拭取	石膏ボードに水性エマルション塗装	水性エマルション塗装
一時保管庫	1階	122m ²	—	3.35m、3.07m	フローリング(ブナ)無垢材	調湿パネル	調湿パネル
収蔵庫	2階	403m ²	—	2.985m	フローリング(ブナ)無垢材	調湿パネル	調湿パネル

4. 照明設備

LEDスポットライト、蛍光灯(シームレスリムによる間接照明) ※光源はすべて紫外線防止

5. 防火設備

監視設備 煙感知器
 消火設備 ハロンガスによる自動消火(収蔵庫、一時保管庫、ギャラリー3)、屋内消火栓及び消火器による手動消火、防火シャッター及び防火扉を設備

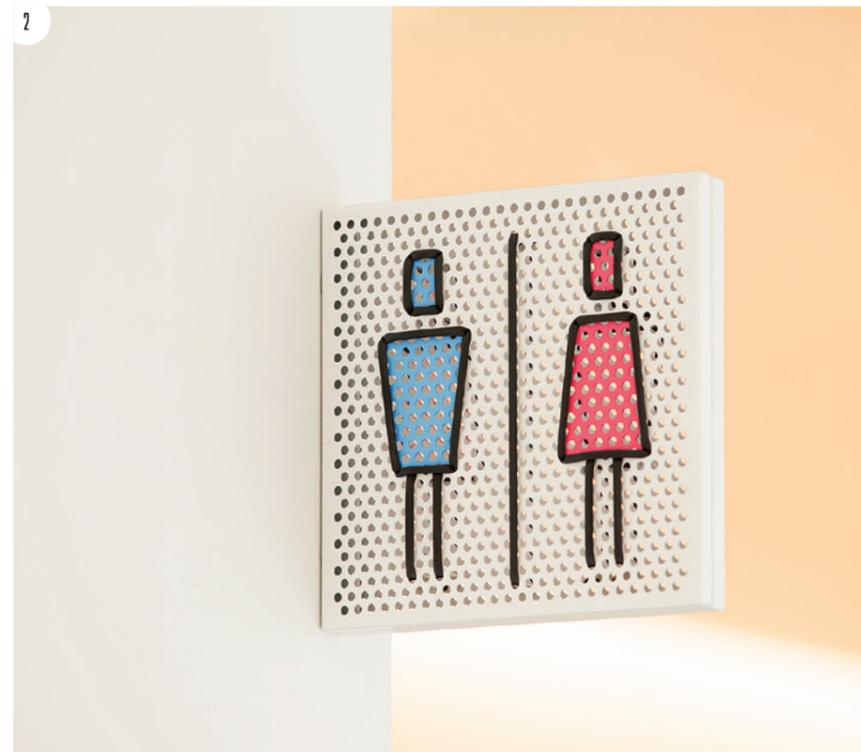
ヴィジュアル・アイデンティティ

つながるデザイン

デザイン: 西澤明洋 NISHIZAWA Akihiro
(株式会社エイトブランディングデザイン)/ブランディングデザイナー

アーツ前橋は、美術を中心にジャンルが多様であること、参加形態が多様であること、コラボレーションによって新たなものが生まれることを特徴としています。本施設の外観は、商業施設として活躍していた旧施設の建築を、コンバージョンにより白いパンチングメタルで覆い、施設とまち、前橋の過去と現在をつなぐ象徴的なデザインとなっています。このパンチングメタルを基点に、VI及びサインデザインは、「点と点をつなぐ線」をコンセプトとしています。そして、バラバラの点(穴)を一本の線でつなぎ、文字やピクトを創り出すデザインとしました。ひとつひとつの点は、人、まち、アート等の様々な要素を表しています。そして、それらをつなぐ線は、アーツ前橋の活動を表しています。シンボルとなるロゴマークも、前橋の「前」と「M」をモチーフとし、全ての文字が見えない点と線につながっています。この点と線の関係は、今まで何も無かった空間に新たな形を創り出すクリエイションの力であり、アーツ前橋がその活動を通じ、人と人、人とまち等をつなげるプラットフォームとして、アートの新しい可能性を示していくことを象徴しています。

文: 西澤明洋



- 1 白いパンチングメタルの穴にゴムチューブを通し、思わず触れたいくなるサインです
- 2 トイレのサイン
- 3 館内の随所で出会うことができます
- 4 アーツ前橋のロゴマーク。建築とともにアーツ前橋の活動コンセプトを象徴しています

HISTORY

沿革

「これから」のための、「これまで」。

- 2007 「美術館構想」の庁内検討を開始
- 2008.10 ~ 2009.3 市民による「美術館構想に向けてのワークショップ」(全8回 市民21名)
- 2009.11 ~ 2010.3 美術館基本構想検討委員会(全4回 委員長:池田政治 委員:8名)
- 2010.4 ~ 5 美術館基本構想(素案)に関するパブリックコメント実施
- 2010.5 ~ 11 美術館基本計画検討委員会(全4回 委員長:池田政治 委員:8名)
- 2010.6 旧西武デパート WALK 館を改修し美術館として活用することを決定
- 2010.7 美術館基本構想策定
- 2010.11 美術館基本計画策定
- 2010.11 美術館プレイベント開始
- 2010.12 ~ 2011.1 美術館設計プロポーザルコンペティション(委員長:石田敏明 委員:6名)
最優秀:水谷俊博建築設計事務所一級建築士事務所、設計者に選定
- 2011.3 ~ 7 美術館基本設計・実施設計
- 2011.4 政策部文化国際課内に美術館開設準備室を設置
- 2011.7 中心市街地のミニギャラリー千代田に市民活動拠点を開設
- 2011.12 工事請負契約締結、工事着手
- 2012.2 山本龍市長就任
- 2012.4 美術館開設準備室を芸術文化推進室に改称
- 2012.4 ~ 6 芸術文化施設運営検討委員会(全4回 委員長:中島信之 委員:14名)
- 2012.6 タウンミーティング(公聴会)が芸術文化施設運営検討委員会により開催
- 2012.7 芸術文化施設運営検討委員会による「芸術文化施設のあり方に関する提言」
- 2012.9 アーツ前橋管理運営方針を策定。館名を「アーツ前橋」とすることを決定
- 2012.9 前橋文化推進会議
(全15回 議長:中村ひろみ/平成25年1月まで 喜多村徹雄/平成25年1月~10月 委員:9名)
- 2012.10 「アーツなカフェ」が前橋文化推進会議により開催(全6回 2ヶ月に一度開催)
- 2012.10 竣工
- 2012.12 工事内覧会・見学会を開催
- 2013.3 内覧イベント「WALK あるくことからはじまること」開催
- 2013.7 初代館長に住友文彦就任
- 2013.7 アーツ前橋運営評議会設置
- 2013.7 プレオープン(7.4~9.1)
- 2013.10 グランドオープン(10.26) 開館記念展「カゼイロノハナ 未来への対話」開催
(敬称略)

INFORMATION

基本情報

アーツ前橋
ARTS MAEBASHI

〒371-0022 群馬県前橋市千代田町 5-1-16
 5-1-16, Chiyodamachi Maebashi Gunma 371-0022
 TEL 027-230-1144
 FAX 027-232-2016
 URL <http://artsmaebashi.jp/>
 MAIL artsmaebashi@city.maebashi.gunma.jp



開館時間	11時~19時
Hours	11am-7pm
休館日	水曜日
closed on	Wednesdays
交通案内	公共機関 JR前橋駅から徒歩約10分 上毛電鉄 中央前橋駅から徒歩約5分 自動車 関越自動車道 前橋 I.C から車で約15分
Access	By Train About 10 min. on foot from JR Maebashi station. By Car About 15 min. by car from the Maebashi Interchange on the Kan-etsu Expressway.



© ARTS MAEBASHI 2014

発行 アーツ前橋
 デザイン EIGHT BRANDING DESIGN、熊田哲大
 仕様 A4判 36ページ 中綴じ
 使用フォント 本文: AXIS
 写真クレジット ©KIGURE Shinya (表紙、P1-2、5-6、7、8上・左下、9-10、11-12、14左、15、16下、17-18、19、20上、21上、22右下、23、24左・右下)
 ©TOSHIHIRO MIZUTANI ARCHITECTS (P25-26、27、28上・中左・下、29)
 ©ASAKAWA Satoshi (P28中右)
 ©EIGHT BRANDING DESIGN (P31)
 ©TANIMOTO Hiroshi (P32)

